地域交通データ連携事業 ｜ 九州地域交通データ利活用推進協議会

プロジェクト概要

交通系ICカードの乗降実績データとクレジットカード等によるタッチ決済の乗降実績データを統合し、交通事業者がいつでも自由に活用可能な乗降実績データ分析ダッシュボードを交通事業者向けに提供することで、交通政策の検討や施策効果の検証などにおけるデータ活用を促進し、業務効率化および利用者の利便性向上を実現する。

課題

- 交通系ICカードやクレジットカードのタッチ決済から日々発生する膨大な乗降実績データを統合し活用することは、技術的な課題に加え、費用や運用負荷の面でも大きな課題である。
- その結果、利用実態や利用者の特性をデータから十分に把握できていない状況。

取組内容

- 交通系ICカード（ニモカ）およびクレジットカード等のタッチ決済乗車（stera transit）から取得可能な乗降データを統合し、これらのデータを分析可能なダッシュボードサービスを構築して交通事業者に提供する。ダッシュボードサービスは、実際に交通事業者に活用してもらい、業務活用および効果検証に取り組む。
  - データ連携機能の開発：交通系ICカード（ニモカ）とタッチ決済乗車（stera transit）を統合するための連携機能を開発
  - 分析用ダッシュボードの開発：交通系ICカード（ニモカ）で取得したデータとタッチ決済乗車（stera transit）で取得したデータを格納し、分析を行うためのダッシュボードを開発
  - 施策の効果検証への活用：ダッシュボードを交通事業者へ導入し、利用者属性の変化、乗降数の増減および消費動向等のデータ分析を実施。分析した結果を施策の設計・効果検証に活用し、次の施策に向けて改善を行う（PDCAサイクルの構築）
- 2026年度は福岡エリアを中心にしてデータ協業モデルの検証を実施、2027年度はこのモデルを横展開し他地域の複数交通モードでも活用、2028年度以降にエリア全体の交通課題解決に向けたデータ協業モデルの構築を目指す。

事業要件

- データ統合によるモード横断のデータ活用（協業化）

技術要件

- 乗降実績データ標準仕様書（鉄道・バス）

効果

- データ利活用環境の整備による交通事業者の業務効率化
- データに基づいた利用促進策の実施による公共交通利用件数の5%向上を目指す

事業実施自治体・エリア

福岡県福岡市
（福岡県北九州市、長崎県長崎市、佐賀県唐津市、大分県別府市、大分県日田市）

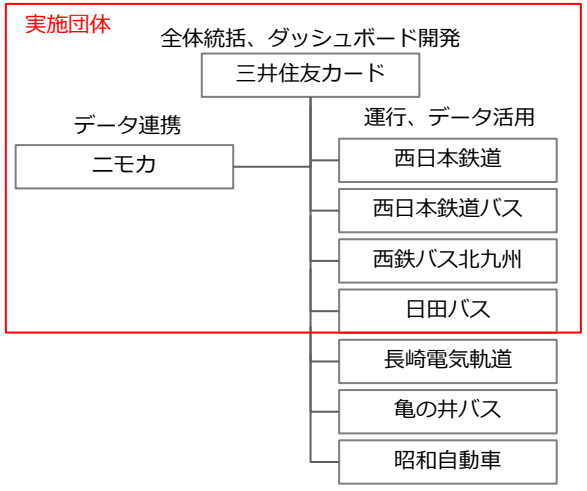
交通事業者

鉄道：西日本鉄道
軌道：長崎電気軌道
バス：西日本鉄道バス、西鉄バス北九州、日田バス、亀の井バス、昭和バス

アプリ・システム等

- アプリ・システム：乗降実績データ分析ダッシュボード
- データの取得方法： 乗降実績データをニモカ及びQUADRACから取得
- データの活用方法： 乗降実績データをTableauで可視化、利用促進施策検討に活用

座組



スケジュール

4～6月　実施計画・要件定義
7～8月　システム要件定義・設計
8～12月　システム開発
12～2月　サービス検証
2月　効果測定・取り纏め

Copyright © 2026 by MLIT. All rights reserved.